

文献には、信頼性に乏しいものがあります。すべてが史実とは限りません。随時追加修正中 文責 石田明夫

西 暦	年号	月日	内 容	文献	領主	支配
1601.0825	慶長6年	8月25日	8月25日、蒲生秀行に会津60万石を申し渡される。	会津鑑	景勝	家康
1601.0825	慶長6年	8月25日	8月25日、景勝、長井へ移ることを申し渡される。	旧事雑考	景勝	家康
1601.08	慶長6年	8月	8月下旬、岩井、水原、安田は米沢に移住。	上杉年譜	景勝	家康
1601.0926	慶長6年	9月26日	9月26日、蒲生秀行、石田三成に反抗した功績により、宇都宮から会津に戻る。	旧事雑考	秀行	家康
1601.0926	慶長6年	9月26日	9月26日、蒲生秀行会津60万石を賜り、宇都宮を発し27日に還城する。10月1日、秀行の室が若松城に入る。	異本長帳	秀行	家康
1601.1001	慶長6年	10月1日	10月1日、秀行の室が、若松城に入る	旧事雑考	秀行	家康
1601.1003	慶長6年	10月3日	10月3日、景勝、大坂城で豊臣秀頼に太刀と銀子100枚、淀君に銀子50枚を献上する。	上杉年譜	秀行	家康
1601.1015	慶長6年	10月15日	10月15日、景勝、伏見邸を出発する。	御年賦	秀行	家康
1601.1125	慶長6年	11月25日	11月25日、秀行、城下の両替料の規定をする。	築田家文書	秀行	家康
1601.1024	慶長6年	10月24日	10月24日、前田慶次、伏見を出発する。中仙道と奥州道を経由し、11月19日、米沢に着く。	前田慶次道中日記	秀行	家康
1601.1028	慶長6年	10月28日	10月28日、景勝米沢に着く。	三重年表	秀行	家康
1601.1128	慶長6年	11月28日	11月28日、景勝、米沢への移封が済む。翌年の2月までかかった者や、耶麻郡の信濃町のように会津に残った者も多く居た。	上杉家記	秀行	家康
1601.1128	慶長6年	11月28日	11月28日、景勝、米沢城へ着く。	御年賦	秀行	家康
1601.	慶長6年		この年、若松城下の仙桃院菩提寺、俊芳山東昌寺を米沢に移す。	異本長帳	秀行	家康
1601.	慶長6年		この年、曹洞宗の量外が建てた仙桃院の祠堂、俊芳山東昌寺を米沢に移し、その弟子壽尊を留め、加藤氏の時に現在地へ移転。	新編会津風土記	秀行	家康
1601.	慶長6年		この年、林泉寺、法音寺、大乘寺など上杉家臣団の寺院が会津から米沢へ移る。	米沢市史	秀行	家康
1602	慶長7年		会津高田町小俣の龍門寺僧翁吉、秋田角館より葦名盛氏像を持ち帰り、瑞雲山宗英寺を建てる。	旧事雑考	秀行	家康
1604.0528	慶長9年	5月28日	5月28日、融通寺が勅願所に列せられ、6月に扁額が掲げられる。	県指定家世実紀	秀行	家康
1604.0722	慶長9年	7月22日	7月22日、大雨	旧事雑考	秀行	徳川
1605.02	慶長10年	2月	2月、桧原山と石森から黄金が出る。	旧事雑考	秀行	徳川
1606.11	慶長11年	11月	11月、蒲生忠郷が生まれる。	旧事雑考	秀行	徳川
1608.0521	慶長13年	5月21日	5月21日、若松城外郭の堀、掘り始められる。	会津鑑	秀行	徳川
1608.0521	慶長13年	5月21日	5月21日、若松城の外郭の堀、掘り始める。	旧事雑考	秀行	徳川
1608.0523	慶長13年	5月23日	5月23日、若松城二ノ丸の堀を掘る。	旧事雑考	秀行	徳川
1610.0520	慶長15年	5月20日	5月20日、若松城の石垣を築き始める。	会津鑑	秀行	徳川
1610.0520	慶長15年	5月20日	5月20日、若松城の石垣、築き始める。	旧事雑考	秀行	徳川
1611.0821	慶長16年	8月21日	8月21日、辰刻(午前8時頃)、会津大地震。耶麻郡の5分の1が水没し、山崎湖ができる。柳津舞台、塔寺観音堂、新宮拜殿が倒壊。石垣が崩れ、塀と櫓が落ち、天守が傾いた。2万石分湖水となる。	旧事雑考 当代記	秀行	徳川
1611.0924	慶長16年	9月24日	9月24日、イスパニヤ人のセバスチャン・ビスカイノが若松の秀行を訪ね、29日には米沢に向かう。	金銀島探検報告	秀行	徳川
1611.12	慶長16年	12月	12月、冬至から年明けまで、雨雪がふらず。	旧事雑考	秀行	徳川
1612.0514	慶長17年	5月14日	5月14日、蒲生秀行死去。30歳、廟は若松城南の成願禅寺側、松本右馬允古壘内、允殿館という。	蒲生家譜 旧事雑考	忠郷	徳川
1612.0902	慶長17年	9月2日	9月2日、大風	旧事雑考	忠郷	徳川
1612.09	慶長17年	9月	9月、秀行が死去し、嫡子亀千代(忠郷)が跡を継ぐ。	旧事雑考	忠郷	徳川
1612.1005	慶長17年	10月5日	10月5日、忠郷、忠知、会津を発し、江戸に赴く。	旧事雑考	忠郷	徳川
1612.1015	慶長17年	10月15日	閏10月15日、忠郷兄弟が若松に帰る。	旧事雑考	忠郷	徳川
1612	慶長17年		この年、若松に弘真院が建てられる。	異本長帳	忠郷	徳川
1614.0821	慶長19年	6月15日	6月15日、喜多方、新宮熊野神社の拝殿が再建供養される。	旧事雑考	忠郷	徳川
1614	慶長19年		この年、若松に長善寺が建てられる。	寺社縁起	忠郷	徳川
1615.0618	慶長20年	6月18日	仕置奉行の稲田数馬助が、石ヶ森山について触れを出す。	新編風土記	忠郷	徳川
1615.0725	慶長20年	7月25日	仕置奉行の稲田数馬助が、幕府の命を受けて煙草を禁止する。	新編風土記	忠郷	徳川
1616.0701	元和2年	7月1日	仕置奉行の稲田数馬助が、塔寺千手観音堂建築材を坂下村など6ヶ村に賦課する。	新編風土記	忠郷	徳川
1616	元和2年		南会津町館岩の前沢に前沢寺が建てられる。	寺社縁起	忠郷	徳川
1617	元和3年		若松に大運寺が建てられる。	寺社縁起	忠郷	徳川

1618.0307	元和4年	3月7日	3月7日、黒沢銀山の見立てを大沼弥次右衛門に申し付ける。	新編風土記	忠郷	徳川
1618	元和5年		この年、喜多方市新井田谷地に宝昌寺が建てられる。	寺社縁起	忠郷	徳川
1619.0219	元和5年	2月19日	2月19日、町野長門守、稲田数馬助が忠郷の上洛に先立ち家中に定を出す。	新編風土記	忠郷	徳川
1619.0221	元和5年	2月21日	2月21日、融通寺に100石の寺領を与える。	新編風土記	忠郷	徳川
1619.0321	元和5年	3月21日	3月21日、忠郷が母昌清院の牌所として融通寺に200石を与える。	新編風土記	忠郷	徳川
1621	元和7年		この年、三ノ丸の稲荷郭取り壊される。	新編風土記/ 当代記	忠郷	徳川
1621.0322	元和7年	3月22日	再び黒沢銀山の見立てを大沼弥次右衛門に申し付ける。	新編風土記	忠郷	徳川
1621.0615	元和7年	6月15日	仕置奉行が辻相撲、踊りを禁止する。	新編風土記	忠郷	徳川
1621.0920	元和7年	9月20日	町奉行の満田出雲守、町野主水佑が若松町中に掟を出す。	築田家文書	忠郷	徳川
1623.0424	元和9年	4月24日	大僧正天海が、黒川常光寺に延暦寺直末を許可する。	新編風土記	忠郷	徳川
1623	寛永元年		若松の大町に松円寺が建てられる。	寺社縁起	忠郷	徳川
1625	寛永2年		春、蒲生氏出羽上山を賜る。	旧事土直考	忠郷	徳川
1625.0223	寛永2年	2月23日	奉行が、町中に火付け摘発に賞金かける。	築田家文書	忠郷	徳川
1626.0309	寛永3年	3月9日	牛刻に恵日寺が炎上する	旧事土直考	忠郷	徳川
1626.0312	寛永3年	3月12日	奉行が、町中の火付け摘発に再び賞金をかける。	築田家文書	忠郷	徳川
1626.11	寛永3年	11月	蒲生忠郷の弟忠知に、山形の上山城を与える。	蒲生家譜	忠郷	徳川
1625.0104	寛永4年	1月4日	忠郷、痲瘡により25歳で死去。高岩寺に葬られる。母も同じくある。	蒲生家譜	忠郷	徳川
1627.0104	寛永4年	1月4日	蒲生忠郷が若松城で死去。	旧事雑考	忠知	徳川
1627.0210	寛永4年	2月10日	蒲生忠知が跡を継ぐも、松山へ24万石で移封となる。	旧事雑考	忠知	徳川
1627.0504	寛永4年	5月4日	加藤嘉明、松山より入る。	塔寺長帳	嘉明	徳川
1627.0505	寛永4年	5月5日	加藤嘉明、松山より入る。	鑑・旧事	嘉明	徳川
1627.0517	寛永4年	5月17日	加藤氏が、大町善行院に町役を賦課する。	築田家文書	嘉明	徳川
1627.0817	寛永4年	8月17日	雪下四郎左衛門が、城に納めた鎌の代金覚えを築田氏へ出す。	築田家文書	嘉明	徳川
1627.0702	寛永4年	7月2日	若松惣町年寄が質倉の規定を町奉行へ提出する。	築田家文書	嘉明	徳川
1628.0208	寛永5年	2月8日	会津城の普請を開始すべく夫役を集める。	新編風土記	嘉明	徳川
1628.1018	寛永5年	10月18日	嘉明・明成が領内の社寺へ知行を寄進する。	新編風土記	嘉明	徳川
1628	寛永5年		会津若松市大戸町小塩の正覚寺が建てられる。	寺社縁起	嘉明	徳川
1629	寛永6年		居館を犬追物馬場に築営。	旧事雑考	嘉明	徳川
1631.0912	寛永8年	9月12日	加藤嘉明が死去。明成が跡を継ぐ。	会津鑑	明成	徳川
1631	寛永8年		喜多方市沖の隋願寺が建てられる。	寺社縁起	明成	徳川
1632.0710	寛永9年	7月10日	加藤氏の代官が坂下に市を許可する。	新編風土記	明成	徳川
1636	寛永13年		如来堂村を神指の郭内へ移す。	旧事雑考	明成	徳川
1638.0920	寛永15年	9月20日	明成が、幕府の命によりキリシタンの高札を掲げる。	新編風土記	明成	徳川
1639.0301	寛永16年	3月1日	明成、若松城の改修に着手する。	会津鑑	明成	徳川
1639.0421	寛永16年	4月24日	若松城、人夫千人余で、丈余（約3m）の石を運ぶ。	旧事雑考	明成	徳川
1639.0711	寛永16年	7月11日	幕府の命により、郡代守岡主馬が芦原村肝煎へバテレン探索を命ずる。	新編風土記	明成	徳川
1641	寛永頃		七重の天守の上の二重を取る。	新編風土記	明成	徳川
1641	寛永18年		若松城の普請大方成る。	会津鑑	明成	徳川
1642.0711	寛永19年	7月11日	加藤氏が幕命により、耕作に精を出すよう触れを出す。	新編風土記	明成	徳川
1642.1020	寛永19年	10月20日	若松町の商人が掟を定める。	築田家文書	明成	徳川
1643.0503	寛永20年	5月3日	明成が、病身を理由に領地を返還し、子の明友に石見国1万石を与える。	会津鑑	明成	徳川
1643	寛永中		寛永某年、加藤家分限帳が成る。	加藤家分限	明成	徳川
1643.0704	寛永20年	7月4日	保科正之、会津へ転封を命じられる。正之は、秀忠の子、3代家光、後水尾中宮和子と異母弟。	家世実紀	正之	徳川
1643.08	寛永20年	8月	若松に建福寺、善龍寺、大法寺が建てられる。	新編風土記	正之	徳川
1643.0808	寛永20年	8月8日	保科正之会津23万石に封ぜられる。南山5万石が預かり地となる。	家世実紀	正之	徳川
1643.0812	寛永20年	8月12日	大町札之辻に初めて制札を掲げられる。	家世実紀	正之	徳川
1643.0823	寛永20年	8月23日	郷村に対して、年貢保護のための19カ条の触書を出す。	家世実紀	正之	徳川
1643.0827	寛永20年	8月27日	金山諸役の定めを申し渡す。	家世実紀	正之	徳川
1643.10.18	寛永20年	10月18日	軽井沢銀山の定め書を渡す。	家世実紀	正之	徳川

1643. 1019	寛永20年	10月19日	若松町中に、米市として、5日・10日・15日・20日・25日・晦日の月6回を定める。	家世実紀	正之	徳川
1643. 1201	寛永20年	12月1日	切支丹、賭博、不審者、縁組など農民に対する仕置きを定める。	家世実紀	正之	徳川
1643. 12	寛永20年	12月	初めて猪苗代城代を定める。	家世実紀	正之	徳川
1643. 12	寛永20年	12月	この年、米67,813.614石。銭3,865.95貫。	家世実紀	正之	徳川
1643. 0318	正保元年	3月18日	家臣の表門、塀、長屋、厩の普請材が城下3里四方で不足する。	家世実紀	正之	徳川
1643. 0815	正保元年	8月15日	口留番所の定七力条が制定される。	家世実紀	正之	徳川
1644. 0818	正保元年	8月18日	竜造寺伯庵殿、公儀より預かる。	家世実紀	正之	徳川
1644. 12	正保元年	12月	この年、米63,173.275石。金21,362.2両、銀45376237貫、銭4,722.860貫。	家世実紀	正之	徳川
1645. 0201	正保元年	2月1日	郭門の夜中への出入りを定める。	家世実紀	正之	徳川
1645. 0314	正保2年	3月14日	材木町焼失。	家世実紀	正之	徳川
1645. 02	正保2年	2月	美濃国瀬戸(瀬戸は尾張国)生まれの水野源左衛門、長沼(須賀川市長沼)に住んで窯(天神窯)を築いていたが、この年若松に来ていたのを保科正之が引き止めて、本郷に住ませ陶器を作らせていた。	新編風土記	正之	徳川
1645. 0315	正保2年	3月15日	若松城下、米代一ノ丁組頭井深監物宅より出火。大風で米代から本一之丁一帯が焼ける。	家世実紀	正之	徳川
1645. 06	正保2年	6月	この夏、旱魃で川の水が減水する。	家世実紀	正之	徳川
1645. 0617	正保2年	6月17日	初めて、切支丹奉行を仰せ付ける。	家世実紀	正之	徳川
1645. 0628	正保2年	6月28日	十八蔵、引移し、ご普請成就する。	家世実紀	正之	徳川
1645. 0808	正保2年	8月8日	揚川筋の船路、改修なる。	家世実紀	正之	徳川
1645. 0820	正保2年	6月20日	慶徳組、山崎新湖御普請する。	家世実紀	正之	徳川
1645. 11	正保2年	11月	勢至堂口の番所、定番に定める。	家世実紀	正之	徳川
1645. 11	正保2年	11月	正之の命により本郷において三人扶持で製陶をしていた水野源左衛門が亡くなる。	陶家覚書	正之	徳川
1646. 0403	正保3年	4月3日	猪苗代五十軒新田、足軽屋敷が焼失。	家世実紀	正之	徳川
1646. 0646	正保3年	4月26日	大地震。	家世実紀	正之	徳川
1646. 0613	正保3年	6月13日	追手口、惣腰懸を申し付ける。	家世実紀	正之	徳川
1646. 06	正保3年	6月	大雨、川が満水となる。	家世実紀	正之	徳川
1646. 0727	正保3年	7月27日	洪水。	家世実紀	正之	徳川
1646. 08	正保3年	8月	「会津若松郭内外絵図」を幕府に提出。会津之惣絵図並びに御城下之絵図、そのほか、高辻帳公儀へ指し出す。	県指定 家世実紀	正之	徳川
1646. 0927	正保3年	9月27日	長福寺跡を建福寺へ下げ渡す。	家世実紀	正之	徳川
1646. 1123	正保3年	11月23日	建福寺跡を樹林寺へ下げ渡す。	家世実紀	正之	徳川
1646. 1218	正保3年	12月18日	蒲生秀行の霊屋、西福寺へ御預け成る。	家世実紀	正之	徳川
1646. 1227	正保3年	12月27日	大之助様誕生。	家世実紀	正之	徳川
1646. 1231	正保3年	12月31日	この年の所務、米方52644石6斗3升2合、金方17942両1分。	家世実紀	正之	徳川
1647. 0817	正保4年	8月17日	洪水。	家世実紀	正之	徳川
1647. 0917	正保4年	9月17日	浄光寺で、浄光院13回忌法要。	家世実紀	正之	徳川
1647. 1113	正保4年	11月13日	八田野山にて鷹狩りをする。	家世実紀	正之	徳川
1648. 02	慶安元年	2月	本郷の水野源左衛門が先に亡くなったので、弟の長兵衛を呼び製陶をさせる。また、城の黒が曇が凍み割れるので工夫するよう奉行の佐川勘兵衛より命を受ける。さらに、小花地村(新潟県阿賀町)で石灰焼きをする。	陶家覚書	正之	徳川
1648. 0310	慶安元年	3月10日	城の石垣、地震長雨にて破損の場所、修理を申し出る。	家世実紀	正之	徳川
1648. 0713	慶安元年	7月13日	洪水。	家世実紀	正之	徳川
1649. 0802	慶安2年	8月2日	本丸稲荷神社後ろの石垣補修普請が成就する。	家世実紀	正之	徳川
1649. 11	慶安2年	11月	公儀の命により、領内の本道・小道を書き出して提出する。	家世実紀	正之	徳川
1650. 0401	慶安3年	4月1日	雪が降る。	家世実紀	正之	徳川
1650. 0704	慶安3年	7月4日	洪水、田畑と川の堤が破損する。	家世実紀	正之	徳川
1650. 0723	慶安3年	7月23日	塩川橋架け替えられる。	家世実紀	正之	徳川

1650.07	慶安3年	7月	浄光院の遺骨を甲州身延山へ改葬する。	家世実紀	正之	徳川
1651.0328	慶安4年	3月28日	追廻し馬場が再興される。	家世実紀	正之	徳川
1652.0206	承応元年	2月6日	日光普請を命じられ、南山の年貢米を江戸の銭屋基左衛門に今市まで運ばせる。	家世実紀	正之	徳川
1652.0601	承応元年	6月1日	軍禁・軍令の諸法度を徹底をするよう家臣に命令する。	家世実紀	正之	徳川
1652.0618	承応元年	6月18日	二之町の法恩寺が郭外に出る。	家世実紀	正之	徳川
1652.1005	承応元年	10月5日	会津領内早魃、江戸廻米を減らす。	家世実紀	正之	徳川
1653	承応2年		水野瀬戸右衛門、城の太鼓門の屋根瓦を赤瓦で葺くことを命じられ、瓦作りの三郎衛門を弟子とする。	陶家覚書	正之	徳川
1653.0615	承応2年	6月15日	郷村救済のため、御救い米を貸与する。	家世実紀	正之	徳川
1654.0418	承応3年	4月18日	北出丸の北東の隅櫓より西の方の石垣十四間改修。	若松市史	正之	徳川
1654.0506	承応3年	5月6日	お城石垣普請。	家世実紀	正之	徳川
1654.0720	承応3年	7月20日	一箕の金掘小屋で火災。小屋とも87軒が焼失する。	家世実紀	正之	徳川
1655.0415	明暦元年	4月15日	稲荷神社の後ろの石垣、並びに太鼓門から鐘突堂の間、ニヶ所石垣普請、成就する。	家世実紀	正之	徳川
1655.0213	明暦元年	2月13日	豆腐作りの製造を許可する。	家世実紀	正之	徳川
1655.0327	明暦元年	3月27日	社倉米の貸付制度を始め、万治元年には社倉金制度も始める。	家世実紀	正之	徳川
1655.0530	明暦元年	5月30日	お城西出丸石垣普請成就する。	家世実紀	正之	徳川
1655.0810	明暦元年	8月10日	大風雨。	家世実紀	正之	徳川
1655.1012	明暦元年	10月12日	若殿、熱塩へ湯治に行く。	家世実紀	正之	徳川
1656.0417	明暦2年	4月17日	閏4月、葬場へ大勢で行くことを停止するようする。	家世実紀	正之	徳川
1656.06	明暦2年	6月	正之二男、正頼が本郷に来て、2代目瀬戸右衛門の陶器作りを見る。高麗手茶碗、三島手薄茶碗、水指を焼く。	陶家覚書	正之	徳川
1657.0223	明暦3年	2月23日	長門様（正頼）の遺骸、院内山へ葬る。（院内御廟の始まり）	家世実紀	正之	徳川
1657.06	明暦3年	6月	長門様（正頼）のお墓、普請成就する。	家世実紀	正之	徳川
1657.0808	明暦3年	8月8日	院内お墓山掃除等、院内村の百姓に勤めることにし、諸役を免除する。	家世実紀	正之	徳川
1658.0308	万治元年	3月8日	儉約令が出される。	家世実紀	正之	徳川
1658.0328	万治元年	3月28日	猪苗代沼尻の山が崩れ、熱湯が沸き上がる。	家世実紀	正之	徳川
1658.0515	万治元年	5月15日	正之、幕府より江戸の三田に下屋敷を拝領する。正之晩年ここで過ごす。	家世実紀	正之	徳川
1658.0606	万治元年	6月6日	江戸の屋敷、長屋の住居作法で心得を定める。	家世実紀	正之	徳川
1658.1026	万治元年	10月26日	改宗した切支丹124人、吟味の上牢獄を赦免する。	家世実紀	正之	徳川
1658.1124	万治元年	11月24日	大雪降る。	家世実紀	正之	徳川
1659.0230	万治2年	2月晦日	晦日、地震。	家世実紀	正之	徳川
1659.0418	万治2年	4月18日	猪苗代城の本丸石垣、修理を命じる。	家世実紀	正之	徳川
1659.0425	万治2年	4月25日	南山、山王峠普請する。	家世実紀	正之	徳川
1659.0609	万治2年	6月9日	百姓の衣服制度を定める。	家世実紀	正之	徳川
1659.0702	万治2年	7月2日	洪水。	家世実紀	正之	徳川
1661.08	寛文元年	閏8月	正之が、殉死の禁止を布告する。	土津言行録	正之	徳川
1661.0828	寛文元年	閏8月28日	閏8月28日、会津藩は、百姓の家造りを制限する。	家世実紀	正之	徳川
1661.1211	寛文元年	12月11日	会津藩は、火薬を保管する焰硝蔵を城内に3ヶ所造る。	旧証類聚	正之	徳川
1661	寛文元年		正之が吉川惟足を招いて神道学ぶ。	視吾霊神行	正之	徳川
1662	寛文2年		宝積寺（会津若松市花見ヶ丘）の瓦小屋二つを本郷へ移転させ、小屋が4つになる。			徳川
1663.0725	寛文3年	7月25日	90以上の者へ養老の扶持1人分を与える。家来4人、町方男4人、女7人、郷村140人の合計155人。感激し涙を流す。	家世実紀	正之	徳川
1663.0725	寛文3年	7月25日	正之、神道や朱子学の影響を受け、火葬を禁止する。	家世実紀	正之	徳川
1663.10	寛文3年	10月	三ノ丸の会所、割場に移される。	家世実紀	正之	徳川
1664.0520	寛文4年	5月20日	会津藩家中の軍役を友松氏興に命じ作成し改定する。	家世実紀	正之	徳川
1664.05	寛文4年	5月	閏五月、会津最初の学問所、稽古堂が建てられる。	横田三友年	正之	徳川
1664.0914	寛文4年	9月14日	領内の寺社縁起を調査させる。	家世実紀	正之	徳川
1664.1010	寛文4年	10月10日	大窪山、郷ノ原山、小山を土葬の埋葬地に指定する。	家世実紀	正之	徳川
1665.0902	寛文5年	9月2日	横田俊益が稽古堂で講義を始める。	横田三友年	正之	徳川

1666.0615	寛文6年	6月15日	十八蔵橋、引移し、ご普請成就する。	家世実紀	正之	徳川
1667.0705	寛文7年	7月5日	蚕養神社が再興される。	家世実紀	正之	徳川
1668.0411	寛文8年	4月11日	家訓十八ヵ条が制定される。	家世実紀	正之	徳川
1668.0802	寛文8年	8月2日	融通寺町で出火。	家世実紀	正之	徳川
1668.0813	寛文8年	8月13日	大川筋普請成就する	家世実紀	正之	徳川
1669.0427	寛文9年	4月27日	保科正之が隠居し、正経が跡を継ぐ。	松平家譜	正経	徳川
1669.07	寛文9年	7月	闇川橋が架け替え普請成就する。	家世実紀	正経	徳川
1670.0318	寛文10年	3月18日	天寧寺町口左右の堀、普請成就する。	家世実紀	正経	徳川
1670.0621	寛文10年	6月21日	天神口御堀普請成就する。	家世実紀	正経	徳川
1671.0519	寛文11年	5月19日	本丸帯曲輪鐘撞堂下の新石垣成就する。	家世実紀	正経	徳川
1671.0701	寛文11年	7月11日	本丸太鼓門東土手、二ノ丸南門の南土手崩れ補修を幕府に届ける。	家世実紀	正経	徳川
1672.0709	寛文12年	7月9日	讃岐口より南町口までの堀、普請成就する。	家世実紀	正経	徳川
1672.1218	寛文12年	12月18日	保科正之が、江戸の三田邸において62歳で死去する。	松平家譜	正経	徳川
1673.0327	延宝元年	3月27日	保科正之の柩を見瀾山に葬る。	家世実紀	正経	徳川
1673	延宝元年		若松に正円寺が建てられる。	縁起	正経	徳川
1675.0819	延宝3年	8月19日	土津神社が建立される。	家世実紀	正経	徳川
1676.0315	延宝4年	3月15日	南町口より花畑口までの堀、浚渫成る。	家世実紀	正経	徳川
1676.0616	延宝4年	6月16日	三ノ丸の堀、普請される。土手の薄い所、附け土手出来る。	家世実紀	正経	徳川
1677.0806	延宝5年	8月6日	三ノ丸に舞台成就。能の興行がされる。	家世実紀	正経	徳川
1677.0904	延宝5年	9月4日	3代目瀬戸右衛門、嫡子又三郎と城中、三之丸において能を見る。	陶家覚書	正経	徳川
1678.1010	延宝6年	10月10日	郭外の堀、浚渫普請成る。	家世実紀	正経	徳川
1679.0428	延宝7年	4月28日	正経、江戸より帰国の折り、本郷に立ち寄る。	陶家覚書	正経	徳川
1681.0219	天和元年	2月19日	保科正経が隠居し、弟の正容が跡を継ぐ。	松平家譜	正容	徳川
1681.1003	天和元年	10月3日	保科正経が江戸の三田邸で死去する。	松平家譜	正容	徳川
1683.0119	天和3年	1月19日	百姓、町人の帯刀を禁じ、衣類の制限をする。	家世実紀	正容	徳川
1683.0901	天和3年	9月1日	南山御蔵入りで大地震。日光戸板山が崩れ五十里川に湖ができる。享保8年(1722)8月10日の大雨で決壊するまで続く。	家世実紀	正容	徳川
1684.10	貞享元年	10月	会津藩の財政が切迫し、三井家より銀800貫目を借りる。	家世実紀	正容	徳川
1686.0628	貞享3年	6月28日	本丸御座ノ間、御寝所の普請成る。	家世実紀	正容	徳川
1692.0702	元禄5年	7月2日	城内に落雷。	家世実紀	正容	徳川
1695.0508	元禄8年	5月8日	佐原義連の碑石を建てる。	家世実紀	正容	徳川
1700.0916	元禄13年	9月16日	保科正之の側室おふきの方、三ノ丸土手に大黒の社を建立。	家世実紀	正容	徳川
1710.0710	宝永7年	7月10日	地震で延寿寺石垣崩れる。	家世実紀	正容	徳川
1731.0910	享保16年	9月10日	松平正容が死去。容貞が跡を継ぐ。	松平家譜	容貞	徳川
1736.0617	元文元年	6月17日	北出丸の棟門東石垣を改修する。	家世実紀	容貞	徳川
1742.0606	寛保2年	6月6日	三ノ丸の石垣普請成る。	家世実紀	容貞	徳川
1744.0823	延享元年	8月23日	崩落した太鼓門坂下西側石垣の土留、石垣その他の普請成る。	家世実紀	容貞	徳川
1750.0926	寛延3年	9月26日	松平容貞が死去。容頌が跡を継ぐ。	松平家譜	容頌	徳川
1766.0821	明和3年	8月21日	二ノ丸東門内の石垣をはじめとする城内の石垣改修成る。	家世実紀	容頌	徳川
1767	明和4年		この年、追手門内の石垣改修される。	家世実紀	容頌	徳川
1767.0915	明和4年	9月15日	城内三ノ丸に八幡神社が勧請される。	家世実紀	容頌	徳川
1768	明和5年		この年、西追手石垣普請のため人足を集める。	会津鑑	容頌	徳川
1768.0829	明和5年	8月29日	城内、ならびに天神口の石垣普請が成る。	家世実紀	容頌	徳川
1776.02	安永5年	2月	三ノ丸に遠的場造られる。	会津鑑	容頌	徳川
1779	安永7年		会津美里町法用寺の三重塔が建てられる。	県指定 家世実紀	容頌	徳川
1791.1023	寛政3年	10月23日	酒造方主役、大坂流の造酒の技術を習得すべしことを申し渡す。	公用日記	容頌	徳川
1792.0316	寛政4年	3月16日	初めて、本郷河原で追鳥狩を仰せ付けられる。	家世実紀	容頌	徳川
1793.1203	寛政5年	12月3日	江戸の中橋横町の平兵衛店を借り切り会津藩の物産会所を設置する。	家世実紀	容頌	徳川
1794.0119	寛政6年	1月19日	若松城下、本三ノ丁甲賀町通り角東、組付神田七郎兵衛宅より出火する。	家世実紀	容頌	徳川
1794.0507	寛政6年	5月7日	若松城下、町屋馬場町口西側御蔵の北、組付笹原三郎長屋より出火する。	家世実紀	容頌	徳川
1796.0119	寛政6年	1月19日	江戸の雛人形師、平松新兵衛、会津雛人形を改良し、技術を伝授する。	家世実紀	容頌	徳川
1799.0905	寛政11年	9月5日	本郷原で追鳥狩をする。	家世実紀	容頌	徳川

1800.0329	寛政12年	3月29日	南町常慶寺町出火、56軒焼失。	家世実紀	容頌	徳川
1805.0411	文化2年	4月11日	瓦師棟梁、岸左衛門、勤方に不応者に付き、勤めを退かせる。	家世実紀	容頌	徳川
1805.0819	文化2年	8月19日	閏8月19日、松平容頌が死去。容住が跡を継ぐ。	松平家譜	容住	徳川
1805.1227	文化2年	12月27日	松平容住が死去。	松平家譜	容衆	徳川
1805.0506	文化2年	5月6日	中六日町出火。	家世実紀	容衆	徳川
1805.0609	文化2年	6月9日	本郷、陶器手、出来が宜しく、追々御国産に相なり。定め書きを渡す。	家世実紀	容衆	徳川
1805.0822	文化2年	8月22日	葦名の家臣佐瀬平八郎の墓に碑石を建てる。	家世実紀	容衆	徳川
1806.0214	文化3年	2月14日	松平容住の弟、容衆が跡を継ぐ。	松平家譜	容衆	徳川
1816	文化13年		会津本郷町円通寺の白磁染付け「釘隠し」が焼かれる。会津本郷焼きの白磁では最古のもの。	銘文	容衆	徳川
1817.0209	文化14年	2月9日	若松城、北出丸南側石垣の修復が成る。	石垣銘文	容衆	徳川
1817.0209	文化14年	2月9日	若松城の西出丸石垣修築される。	若松市史	容衆	徳川
1822.0129	文政5年	1月29日	松平容衆20歳で死去する。	松平家譜	容敬	徳川
1822.0421	文政5年	4月21日	松平養和の子容衆が養子となり8代藩主となる。	忠恭様年譜	容敬	徳川
1831.0308	天保2年	3月8日	本丸並びに、北出丸東北角櫓の西続き堀下石垣二ヶ所など改修される。	若松市史	容敬	徳川
1832	天保3年		西出丸石垣改修される。	石垣銘文	容敬	徳川
1835.12.29	天保6年	12月29日	松平容保、美濃国高津藩松平義建の六男として生まれる	会津若松市	容敬	徳川
1844.0403	弘化元年	4月3日	本丸中門内石垣、一ヶ所その他、改修される。	若松市史	容敬	徳川
1847.0215	弘化4年	2月15日	幕府より、安房、上総二国の湾岸警備を命じられる。	公用日記	容敬	徳川
1849.05	嘉永2年	5月	容敬、幕府へ江戸湾に台場などの防御施設建設を上申する。	忠恭様年譜	容敬	徳川
1851.0601	嘉永4年	6月1日	伊豆韮山の江川太郎左衛門に依頼し、ヘキサンスという大砲を鑄造する。	忠恭様年譜	容敬	徳川
1852.0225	嘉永5年	2月25日	閏二月二五日、八代容敬が死去、容保が跡を継ぐ。	忠恭様年譜	容保	徳川
1853.0713	嘉永6年	7月13日	6月は大旱魃、7月13日彗星出現。	災異年表	容保	徳川
1862.0801	文久2年	閏8月1日	閏8月1日、登城し、将軍から京都守護職を命じられ、5万石と金3万両を貸与される。	守護職始末	容保	徳川
1862.1224	文久2年	12月24日	容保京都に入る。	守護職始末	容保	徳川
1863.1009	文久3年	10月9日	孝明天皇から容保へ御辰翰を賜る。	容保書状	容保	徳川
1864.0407	元治元年	4月7日	容保、病気を理由に固辞したが再び京都守護職に任命される。	守護職始末	容保	徳川
1864.0718	元治元年	7月18日	京都御所の蛤御門の戦いで会津藩は、15ドム砲の威力により長州軍を制圧する。	守護職始末	容保	徳川
1865.0522	元治2年	5月22日	長州藩が寛大な処分を願い出るが、幕府内で意見が対立し、容保は慎重に対処するよう願う。	守護職始末	容保	徳川
1866.1225	慶応2年	12月25日	孝明天皇が痲痘の悪化で亡くなり、明治天皇が即位する。	守護職始末	容保	慶喜
1867.01	慶応3年	1月	松平容保、幕府の征長解兵に反対し、京都守護職辞職と会津帰国を主張する。	守護職始末	容保	慶喜
1867.0808	慶応3年	3月3日	松平容保、慶喜から帰国の取りやめと京の安定と将軍の補佐を頼まれる。	守護職始末	容保	慶喜
1867.1013	慶応3年	10月13日	倒幕の密命が薩摩、長州の二藩にくだる。	守護職始末	容保	慶喜
1867.1014	慶応3年	10月14日	徳川慶喜、大政奉還をする。	守護職始末	容保	慶喜
1867.1209	慶応3年	12月9日	王政復古の大号令、京都守護職廃止となる。明治維新。	守護職始末	容保	明治